有形文化財　考古資料

市指定

打越岱遺跡出土土偶
附　出土土器23点

■ 所在地：下新田1133
（市郷土博物館）

■ 管理者：袖ケ浦市

打越岱遺跡は、小櫃川に合流する松川中流域右岸の標高約69ｍの台地上にある遺跡です。これまで４回の発掘調査が実施され、主に縄文時代早期（今から約11,500年前～7,000年前）の遺構や遺物が発見されています。

この土偶は、平成26年に実施した第４次調査（調査面積630㎡）で出土した考古資料で、縄文時代早期中葉（沈線文期）の土偶です。両腕部が一部欠けていますが、全体の形状が良く残されています。胴部分は、上部・下部に分かれて出土しましたが、意図的にこわされたものかは不明です。表面には、頭部に沈線文、腹部に刺突文が施され、裏面には、全面に薄く細い沈線文が施されています。

縄文時代早期中葉（沈線文期）の土偶が見つかった例は非常に少なく、また、土偶の全体像がわかる例はほとんどないことから、発生期土偶の形状を示す大変貴重な資料となっています。

最大長6.0cm、最大幅2.9cm、厚さ0.9cm、重量15.52gを測ります。